

令和4年度 自己評価書・学校関係評価書

令和5年3月20日

真庭市立北房こども園

園長 牧原美恵子 印

1. 北房こども園の教育保育目標

心身ともにたくましく心豊かな子どもの育成

- ・ 明るく元気な子ども
- ・ 友達と遊べる子ども
- ・ 考える子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- 安心して生活できる環境づくり
 - ・ 保育者との愛着関係、信頼関係を基盤とした一人一人の居場所づくり
 - ・ 個々の発達段階や経験等に配慮した基本的な生活習慣の確立
- 夢中になって遊びこめる環境づくり
 - ・ 個々の興味や関心に応じた遊びの環境づくり
 - ・ 体を動かす活動への園内環境の構成や園外環境の利用
- 様々な人と関わる環境づくり
 - ・ 異年齢児交流の充実
 - ・ 地域人材の活用
- 小学校への円滑な接続
 - ・ 小学校や関係機関との連携
- 家庭・地域とともに育てる
 - ・ 教育及び保育活動についての発信

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	園の教育目標等を職員が共通理解し、園児の実態に即した計画を立案した。また、研究テーマに沿った保育に取り組んだ。	3	4
行事	コロナ禍のため、開催方法を工夫し、ねらいの達成や育ちの保障ができるように取り組んだ。	3	3
組織・運営	職員がそれぞれの立場を理解し尊重する中で、協力、協働し合いながら担当業務にあたった。	3	3
学級経営	園児の気持ちを受け入れたり、一人一人の発達を理解したりして保育を行うよう努めた。	3	4
特別支援教育	保護者や小学校、関係機関と連携しながら、園児の特性を理解し、支援するよう努めた。	3	3
安全管理・保健指導	定期的な安全点検や様々な危険を想定しての避難訓練などを行い、安全管理に努めた。	3	3
研修（資質向上）	研修会参加後の復命等で研修内容を共有し、職員全体の資質向上に努めた。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	園の様子を伝えたり、必要に応じて保護者との面談を行ったりした。さらに地域力を活かした保育を進めたい。	3	3
小学校との接続・連携	子ども同士や教職員間の交流の機会を増やすことができた。今後も情報共有など、連携に努めたい。	3	3
子育て支援	必要に応じて保護者や関係機関と連携し対応した。保護者がより相談しやすい環境づくりに努めたい。	3	3
食育の推進（給食）	調理員と保育教諭が連携を図り、食育指導に取り組んだ。アレルギー食や離乳食なども適切に対応した。	3	3
食事の提供（調理）	衛生面を徹底し、園児の実態に応じて、調理形態や量の調整を行い安全に提供した。	4	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員)
挨拶の習慣化	集団生活の中で定着していくことを意識し、家庭と連携し、職員が手本となるよう心掛けた。	4	4
友達を大切にする	保育者が園児の気持ちを大切にしたり代弁したりすることで、大切にする気持ちが育つよう努めた。	4	4

5. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- ・園児一人一人の思いを受け止め、丁寧に関わることで、園児が安心して園生活を送れるように努めている。このことが全体の基盤となり基本的生活習慣の確立や遊びの充実、人との関わりにつながっていくものと考えている。
- ・個々の興味や学年の様子に応じて遊びの環境について話し合い、クラスや学年だけでなく異年齢児とも活動が繋がったり、交流がもてたりするよう構成してきた。園全体としてさらに充実できるよう話し合いを重ねていく必要がある。
- ・園内環境を活かす活動と共に、園外にも積極的に出かけ、体を動かしたり、自然と触れ合ったりする機会を増やすようにした。地域の方とも関われる機会になると良い。
- ・小学校との交流や地域人材の活用については、昨年度よりも活動の幅がいくらか広がったものの、子ども達や地域の方の安心安全に配慮した活動となった。しかし、小中学校の先生方が園で保育体験を行うなど、今までになかった有意義な活動もできた。交流に関して保護者の期待が大きいのが、子ども達にどのような経験が必要かを考えながら活動を考えていきたい。また、職員間のさらなる連携やカリキュラムでつながることも重要であると考えている。
- ・教育、保育活動についての発信に努めたが、さらに普段の生活の様子等を知ってもらえるよう、ホームページの充実などに工夫が必要である。

6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- ・今後も園児や保護者との信頼関係を大切にし、安心して園生活を送り、楽しんで活動できるようにと考えている。そのために、園児の思いや気持ちを大切にしたり行動を認めたりする保育を全職員で共有していきたい。また、遊びの環境においても育ちの保障とつながりのために丁寧に構成していきたい。
- ・園内外の環境を利用した体を動かす活動の成果が上がってきていると思われる。後援会からの提案で購入した運動遊具の活用により、さらに楽しさが感じられるようにしていきたい。
- ・小学校や地域との連携については、今年度の活動を土台にしながら地域コーディネーターとも連携し、新たな活動を取り入れていきたい。また、職員間やカリキュラムでのつながりなどが具体的に進められるように話し合っていきたい。
- ・園での生活や活動の様子を知ってもらうために、保護者との対面での会話を大切にしつつ、掲示やホームページの充実を図っていきたい。また、保護者だけでなく、地域の方にも知っていただくための工夫が必要だと考えている。

学校評議員・園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である